

上越教育大学研究プロジェクト 終了報告書（若手研究）

研究代表者 所属・職名 学校教育学系・准教授
氏 名 城間 祥子
 研究期間 平成28年度
 研究費 300,000 円

研究プロジェクトの名称	キャリア教育の視点を取り入れたワークショップ型授業におけるアイデンティティの発達支援に関する基礎的研究
研究プロジェクトの概要	<p>キャリア教育では、「一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度」を育成するという観点から、幼児期から高等教育に至るまで発達段階に即して体系的な教育活動を行う必要のあることが指摘されている（中教審答申、平成23年1月）。本研究では、キャリア教育において育成すべき力のうち特に「人間関係形成・社会形成能力」「自己理解・自己管理能力」の育成に資する活動として、学校外の多様な人材との交流を含むワークショップ型の授業に焦点を当てる。ワークショップ型の授業で他者や社会と関わることにより、学習者の自己理解がどのように変化するのかを、状況的学習論における「文化的実践への参加」の枠組みから明らかにする。</p>
成 果 の 概 要	<p>1. アイデンティティを叙述する方法の検討 社会学及び文化人類学におけるアイデンティティ研究について文献研究を行った。複雑に重なり合う実践共同体に同時に参加したりそれらの間を移動したりする、学習者のアイデンティティの重層性を把握する方法論について検討した。</p> <p>2. 小学校におけるキャリア教育の視点を取り入れた伝統・文化の教育実践に関する調査（11月） 那覇市立壺屋小学校において、地域の伝統的な産業である壺屋焼を生かしたキャリア教育の実践について調査を行った。陶器祭りの当日の学習活動を観察するとともに関係者への聞き取り、博物館等での資料の収集を行った。</p> <p>3. 大学の教員養成課程におけるキャリア教育の視点を取り入れた表現教育の実践に関する調査（10～3月） 本学で実施されている表現科目の教育実践について調査を行った。科目担当者として授業に参加しながらデータ収集を行い、学生の表現観、キャリア観、自己認識の変化過程について分析を行った。</p>
研究成果の発表状況	<p>・城間祥子 2016 教員養成課程におけるワークショップ型授業の実践力の育成：ワークショップの学びの理解を目指したプログラムの開発 日本教育心理学会第58回総会発表論文集, p.264</p> <p>・城間祥子（印刷中）総合学習の支援, 松井豊（監修）茂呂雄二（編）スタンダード心理学4 学習心理学、サイエンス社</p>